

第1回 市民と議会のつどい

会議録

日時 平成24年4月1日(日)午後2時開会

主催 宇治市議会

場所 宇治市生涯学習センター1階ホール

作成者(広報委員) 真田敦史/金ヶ崎秀明

1. 開会 松峯広報委員長(司会)

皆さんこんにちは。第1回「市民と議会のつどい」の開催にあたりまして、多くの皆さんにお集まりいただきましてありがとうございます。

この「市民と議会のつどい」でございますが、昨年3月30日に議会基本条例が制定され、その一環として市民の皆さんと議会が信頼を持って、開かれた議会を目指していきたいということで、今日、こうしてお集まりいただいております。最後までお付き合いをいただきますようお願い申し上げます。

本日の司会をさせていただきます松峯と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 挨拶 堀議長

宇治市議会議長の堀 明人でございます。

本日は、第1回「市民と議会のつどい」にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。開催に際しまして、議会を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、平素から宇治市議会の活動に、各段のご配慮、ご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて宇治市議会では、この間、積極的に議会改革に取り組んでおり、その集大成ともいえる議会基本条例を、昨年3月30日に制定いたしました。この条例は、宇治市議会の基本理念、議員の責務及び活動原則等を定め、市民の皆様から選ばれた市民全体の奉仕者であることの誇りを持ち、市民の意向を的確に反映し、市民に開かれ信頼される宇治市議会を築き、全力をあげて市民福祉の向上及び市政の発展に寄与することを目的としています。

そして、この目的に沿い、議会活動の報告及び市民の皆様との意見交換の場として「市民と議会のつどい」を開催する運びとなりました。

本日、第1回目の報告内容は、平成24年度宇治市当初予算の審査概要でございます。まず予算特別委員長より概要についてご説明申し上げ、その後、各党派議員及び無党派議員より審査概要の説明をさせていただきたいと考えてお

ります。説明の後、質疑・応答の時間とさせていただきますので、ご不明な点等ございましたら、遠慮なくご質問いただくとともに、忌憚のない意見をいただきたいと存じます。

短い時間ではございますが、実り多い「つどい」となりますことを願ひまして、開会のご挨拶に代えさせていただきますと存じます。

本日は、誠にありがとうございます。

3. 予算審査概要説明 関谷予算特別委員長

平成24年度の予算の概要について簡潔に説明させていただきます。

議会は宇治市の新年度当初予算案を審議するため予算特別委員会を16人の委員で構成し設置しました。3月8日から部局別審査を行うとともに、付託された20議案及び1請願の審査も併せて行いました。

まずは1. 予算とは 2. 宇治市予算の概要 3. 平成24年度予算の特徴 4. 一般会計予算の内訳 5. 予算委員会での主な審査の順にすすめさせていただきます。

予算とは、4月1日から翌3月31日までの市の歳入・歳出の総額を指してそれは、財政面からみた宇治市の設計書ともいうべきものであります。その編成権や執行権は市長にあります。議会が議決をしないと成立しません。したがって執行できないこととなります。いずれにしても市民生活に直結した重要なことであり、みなさんの大切な税で成り立っています。したがって市民の代表として私たち議員が、議会がしっかりとチェック機能を果たし、最大限の効果を発揮できる予算にと審議しています。

予算の概要ですが、特別会計とは、例えば、国民健康保険事業特別会計は国保の療養給付など国保事業の運営の会計、後期高齢者医療はその医療事業の運営の会計、介護保険も同じように、それぞれの目的を持った事業の会計で、これらと水道事業会計以外が一般会計に当たります。

その予算規模は、一般会計 576億円 特別会計の合計 約422億円
水道の企業会計 約38億円 合わせて約1,036億円となり1,000億円を超える規模となっています。

24年度の予算編成の特徴としては4つに大別されます。

一つ目の「災害に強いまち」ということではあらゆる災害から市民の生命と財産をまもるため、特に、昨年の東日本大震災以降、やはり関心の高い防災対策については、地域防災計画の改定や、また防災事業費、耐震診断・耐震改修推進事業費が拡充されます。

最近、救急搬送が急増していますが、その救急隊の増員にむけ救急救命士の養成や(仮)伊勢田救急出張所整備のための基本設計等が拡充されます。

また、近年の局地的豪雨による浸水被害を防ぐため、河川・排水路の改修及び雨水流出抑制策が予算化されています。

二つ目の「子どもから高齢者までが安心して暮らせるまち」としては、子育て支援の充実として、新規事業として乳児家庭の全戸訪問事業が医療費助成は子育て支援医療費支給費として2億9,000万円計上され、小学校就学前まで月額200円の自己負担ということに拡充されました。

保育サービスの充実として、民間保育所の施設整備や入所枠の拡大、家庭的保育事業も新たに3ヶ所拡大されます。

高齢者福祉サービスの充実として、小倉に新たに老人園芸広場を整備、新規事業として、菟道に新しく開設される特養の建設補助費が計上されています。介護予防としての住宅改修支援も新たに始まります。

三つ目の「学校教育の充実したまち」では、宇治市初の小中一貫校である 黄檗学園が本日開校式を迎えました。

今後さらに小中一貫教育の推進や、学校施設環境の充実、耐震化が図られます。英語教育の推進として全中学校ブロックにAETの配置。中学校の昼食提供事業のモデル校の拡大などが挙げられます。

四つめの「信頼される都市経営のまち」としては、市民サービスの充実と、効率的、効果的な行政運営のための行政改革にとりくむとされ、可燃ごみの収集などに民間委託を拡大し、また、自主財源の確保として新たな有料広告事業も始められます。

一般会計予算の内訳

まず収入（歳入）でございますが、全体の40%を占める市税は円高や一部企業の業績悪化の影響などにより、法人市民税が大きく落ち込む見通しであり、全体としては前年度より約20億円の減収となる228億4,000万円。これは前年比マイナス8.2%となります。

同様に15%減の国庫支出金88億円。1.6%減の地方交付税65億9000万円軒並み減になっていることをカバーしているのが前年比85%増の繰入金19億円であり、つまりこれは貯金を切り崩したということになります。

次に支出（歳出）でございます。内訳を費目別と性質別に見てみますとこのようになります。

扶助費とは社会保障関係経費であり、少子高齢化社会の進展に伴い年々、増加傾向にあります。主なものとして、児童福祉費約73億円や、社会福祉援護費約32億円、生活保護費43億円などです。

人件費は約1,200名の職員の給与関係経費です。

普通建設事業費は耐震改修や、道路建設など、補助費の主なものとしては後期高齢者医療事業療養給付費の負担金13億円や地方税機構の負担金1億円、また、ごみ処理などの城南衛生管理組合の分担金15億5000万円などです。

繰出し金の54億円の主なものは、国保会計への12億円、後期高齢医療へ3億8,000万円、介護保険事業へ17億円、公共下水道事業へは都市基盤整備の重点施策としての位置づけで約20億円とされています。

次に、費目別に見ますと、左側の円グラフですが、目的別に見たものであり、民生費とは福祉予算で、保育所運営費や子育て支援医療費は増加するものの、児童手当の改正により 6 億円の減。また、教育費は黄檗学園整備事業の進捗に伴い、前年より大幅に 16 億 7,000 万円の減、道路や河川整備の土木費では、近鉄大久保駅前交通広場整備などの影響により 2 億円の減となっています。

最後に予算委員会での審査ですが、熱心に質疑が交わされました。

市政全般に関しては様々な角度から、地域からお聞きする問題点やご要望もありました。

JR 奈良線の複線化や通学路の安全対策、市民生活に直結した事柄から、国政にかかわることまで。

特にやはり震災復興や防災に関しては一層白熱し、防災対策、自主防災、防災教育にかかる質問や意見が多かったように思います。

予算特別委員会は付託を受けた 20 議案と 1 請願を審査し、19 議案が可決するべきものと決しました。

4. 会派説明（各 6 分 / 無会派 3 分）

共産党議員団 坂本議員

日本共産党議員団を代表しまして報告します。

長引く不況と昨年 3 月 11 日に発生した東日本大震災、福島原発事故の甚大な被害が、暮らしと経済に深刻な影響を及ぼしています。こうした時、市民の福祉・暮らしを守るのが自治体の責任です。公共料金の値上げが目白押しとなっている予算に対し、共産党議員団は、対案も示しながら、福祉・暮らし・子育て支援を求めてまいりました。

宇治市は国民健康保険料を据え置くとしましたが、宇治市の国保料は、この 10 年間上がり続け、1.5 倍にもなっています。もともと国保加入世帯は、年金者、自営業者、非正規労働者など、低所得の世帯が多く、高い国保料を払えば病院に行けない、深刻な状況となっています。

暮らしが大変で、市民からも「国保料の引き下げを求める請願」が出され、党議員団も、国保料引き下げの条例を提案しました。引き下げの財源はありません。平成 23 年度も「赤字になる」として、3.63%・1 億 4 千万円も値上げがされました。しかし、23 年度の決算見込では、2 億 8 千万円もの大幅な黒字となっています。この大幅な黒字になった原因が「計算違い」であったことを市も認めています。市の計算違いで値上げされ、市民の負担で生まれた黒字ですから、黒字分は市民に返すべきものです。

党議員団は、2 億 8 千万円の黒字分と市の一般会計からの繰入金金を、22 年度・23 年度並みに行って、例えば、年収 300 万円・4 人家族で 2 万 3 千円の国保料を引き下げる条例を、他会派にも呼びかけ提案しました。残念ながら、条例も請願も賛成少数で否決されましたが、引き続き、高い国保料を引き下げ、

市民の暮らしを守るために力を尽くしていきます。

介護保険料は、基準額で6万2,100円・26%の値上げ、前期比で1万2,910円の負担増となっています。昨年の段階で、全国の殆どの市町村で保険料が大幅な値上げになるという推計がだされ、政府は初めて、都道府県に設けている「財政安定化基金」の取り崩しを認めました。京都府の「財政安定化基金」には62億円も積立られています。議員団は、基金を総出動させて、保険料の値上げを抑えることを求めてきました。残念ながら実際に使われたのは、半分の30億円だけでした。

他会派と一緒に、国に対し、介護保険料の軽減を求める意見書を可決したところ です。

75歳以上の後期高齢者医療保険料は、一人あたりの保険料が75,033円・5.03%もの値上げで、前期比で3,592円の負担増となっています。5年前に後期高齢者医療制度が創設されましたが、わずか5年間で4,418円も値上げされ、保険料の滞納者は(平成22年度の時点)272人、短期証の発行は(今年2月時点で)36人も発生しています。高齢者に、病気の心配だけでなく、保険料や治療費の心配もさせる、あまりにも酷なことです。後期高齢者医療制度は直ちに廃止することを求めました。

子育て世帯には、年少扶養控除の廃止で、この6月、5億4千万円の住民税の増税が押し寄せてきます。こうしたとき、子育てを応援していくことが必要です。

子どもの医療費助成は、これまで市民から繰り返し、制度の拡充を求める請願や要望書が議会にだされ、党議員団も条例を提案してきました。京都府の制度拡充に合わせて、宇治市でも今年の9月から、小学校入学前まで無料に、小学1年～6年生の段階は、3,000円を超える自己負担分を助成をすることになりました。市民の運動の成果です。しかし、3,000円を超える対象者はわずか15%・149人しかなく、しかも償還払い制度のために受給は困難です。府南部を見ても、今年度さらに拡充が広がり、城陽市で小学3年まで、京田辺市、八幡市、木津川市で小学校卒業まで、他の自治体ではもうすでに小学校卒業、中学校卒業まで拡充されています。小学校入学前までの段階の助成は、宇治市を含む2自治体だけになり、宇治市は取り残されています。小学校卒業までの無料化を求めてきましたが、残念ながら実現しませんでした。さらに拡充へ、力を尽くしていきます。

本日、宇治黄檗学園が開校しました。総額41億円の新校舎建設となっています。一方、殆どの学校で、雨漏りや臭いトイレなどの改修がおくれ、子どもや保護者、学校関係者からも改善を求める声が上がっています。公立の学校で学校環境の格差を放置しておくことはできません。平成20年から10年間・50億円で「第2期学校施設整備計画」がスタートしましたがまだ、8億円しか実施されていません。党議員団は、残り6年間の年次計画を早急につくって実施し

ていくことを求めました。

以上で報告を終わります。

民主党議員団 田中議員

民主党宇治市会議員団は、昨年12月26日に2012年度予算編成に関する『要望書』を提出させていただきました。その中で、24年度における最重要案件は、命を守る施策であり、さらなる医療の充実であると謳っております。又、市政への過度の期待は行政手腕だけで叶うものではなく、市民との協働でなしえるものであり、そのためには職員との行政懇談会や次なる世代の職員育成が重要と考えており、厳しい財政状況下では、行政が担う役割と市民が担う役割のすみ分けもしっかりと示していかなければならないものと思っています。

それらを踏まえた上で、民主党宇治市会議員団として予算委員会に望ませていただきました。部局別審査及び総括で重要案件として質問をさせていただきました内容をかいつまんで説明させていただきます。

1. 命を守る施策...宇治徳洲会病院の移転問題について

3. 11 東北大震災の経験を踏まえ、何より重要な問題として取り上げさせていただきます。

今年度予算計上されている都市計画マスタープラン改訂費における宇治徳洲会病院の移転につきましては、移転計画地が農業振興地域の農用地区域であり、かつ市街化調整区域であるため、土地利用の方針を見直さねばならず、地区計画を策定する必要があります。医療・福祉に限定して建築行為を誘導し、規制するための都市計画法による地区計画であり、今、農地転用問題が概ね解消され、次のステップとして、その段階に来ているのが現状です。宇治市にとりましても、又近隣の市町村にとりましても重要な医療施設であるために、今後は、宇治徳洲会病院による、宇治市まちづくり景観条例に基づいた諸手続きが行われ、開発許可、農地転用許可の後、25年春着工着手に向けて、協議が進められていく予定です。

2. 安全・安心のまちづくり...自主自立したまち

行政改革を推進するためには、その受け皿となる市民組織が重要となります。震災などで、役所機能が働かない状況に陥る可能性も想定した時、命を守るすべは、自助・共助・公助の棲み分けをし、行政の関与と市民の連携が重要となります。「町内会・自治会等活動推進検討委員会」で様々ご論議いただいている、コミュニティの活性化は、集会所再生プランでも方向性を示していかなければならず、民主党宇治市会議員団としては、推進をし、集会所条例を廃止する条例に賛成をさせていただきました。

宇治市の集会所は、131か所あり、地域のコミュニティの核として設置されている現状は、他市には見られない、宇治市独自の重要な取り組みです。

しかし、この集会所は、人口急増期に開発に伴い建築されたものが多く、老朽化が進み、早急な耐震調査を実施し、必要な耐震補強工事も行わなければなりません。

管理運営面でも、民間集会所の実情を考慮した時に、民間への補助をする事によって、再生プランによるバランスがとれる事は平等の観点からも重要であり、又、実質、それぞれ地域の実情によっても様々で、統一された運営方法とはなっておらず、地域の自由度に縛りがあることは、否めません。

この再生プランによって地域住民がそれぞれ使い勝手の良い運営手法を相談いただき、主体的に決められる。そのように思っており、そういう点では、まさに、自主自立を促す住民自治本来の地域主権を踏み出す、最初の一步であると確信をしております。しかしながら、それぞれの地域では、思いも利用形態も違う事から、この1年をかけて行政と市民がしっかりと認識を共有し、よりよい利用形態を模索する必要がある、ぜひとも市民の皆さんには一緒になって取り組む。という思いを持っていただきたいと思っております。又、行政には、しっかりと説明し、25年実施に向け、最大限の努力をするよう、意見をさせていただいております。

3. 人材を人財とした意識改革

福祉部の部局別審査で、生活保護における「誓約書の強要」という問題が質疑をされました。私達民主党宇治市議員団としましては、予算要望書の中に、人材育成をあげさせていただいた事から、福祉という観点から、もっとも重要な部署である「生活支援課」で起こったこの事案に関して、職員の適正配置、研修の在り方という点で取り上げさせていただきました。

職員の平均年齢が39歳と一気に若返り、ベテラン職員が見本を示せる機会もなかなかない状況で、助けを求めておられる人たちに寄り添う事の重要性の認識不足、又コミュニケーション不足が招いた事とはいえ、今後の事を考慮すると、やはりしっかりとした研修を重ねる事が重要であり、市民と対峙できる職員の育成が急務であると思っております。

4. 観光振興について

宇治の誉である、宇治茶を紹介する意味も含め、宇治川太閤堤跡の保存、活用については観光振興につながる大きな取り組みと考えておりますので、推移を見守りながら、各課が連携し、しっかりと推進してもらいたいと思っております。

5. 防災に強いまちづくり

- ・ 防災備蓄の各学校での取り組み
- ・ 地区班員の地域への取り組み
- ・ 浸水対策としての貯留施設整備

自民党議員団 久保田議員

自民党市会議員団より平成24年度予算に関し述べさせていただきます。私どもは、坂下弘親団長をはじめ、堀明人議長、川越清、荻原豊久、金ヶ崎秀明、そして、私、久保田幹彦の6名で構成しております。今回の平成24年度予算特別委員会には、荻原、金ヶ崎が委員、そして私、久保田が副委員長として審査を進めてまいりました。

私ども自民党議員団6名は、昨年11月28日に久保田勇市長に対し平成24年度の予算について要望いたしました。ご承知の通り、急激な円高や長引くデフレ不況、また大震災をはじめ我々を取り巻く環境はますます厳しさを増し、社会経済情勢は全く予断の許されない状況であり、日本はもとより地方にも大きな影響を及ぼし、市内経済も例外ではありません。我々も、これまで以上に危機感を持ち、市民の皆様が開かれた議員活動を目指し、市民全体の福祉の向上と将来にわたり安心して暮らせる街づくりに、議員団一同全力で取り組んでまいります。

さて、平成24年度予算は、財政指数や決算状況からも一段と厳しさを増すものであります。限られた財源を有効に活用しなければなりません。多様化する市民ニーズのもと、市民サービスを低下させることなく、経常経費の縮減や義務的経費の見直し、民間への業務委託の推進など、行財政改革に全力で取り組んでいかなければなりません。以上のような基本理念のもと、平成24年度予算編成にあたり、重点要望事項7項目と、総務・文教福祉・建設水道・市民環境の各部局138項目にわたり、予算要望をいたしました。

重点要望のなかで、主なものを紹介致しますと、「行財政改革」につきましては、厳しい財政状況下、増大する多様な市民サービスのレベルを低下させることなく、市長以下全庁あげて、市町村合併も視野に入れた徹底した改革に取り組むこと。

「防災」に関しましては、大震災後の宇治市地域防災計画の見直しに際しては、地域の実情に応じた、真に災害に強い街づくりを積極的に推進すること。

「子育て支援」につきましては、乳幼児医療費助成制度の充実など、積極的な子育て支援施策の推進に努めること。

「教育」に関しましては、小中一貫教育全面実施を契機とし、さらなる学力の向上と充実、生きる力を育む教育、教職員の資質の向上、並びにきめ細かい学校施設整備に努めること。などが主な項目です。

この要望の結果、特に平成24年度当初予算に、子育て家庭の医療費にかかる経済的負担の軽減への取り組みとして、子育て支援医療費支給の充実予算を計上していただき、可決成立することができました。これにより平成24年9月診療分から、小学校入学前までの医療費実質無料化、そして小学校6年生までは、月額3,000円を超える部分について償還払いへと充実することができました。市の予算対応に、我々議員団と致しまして評価するものです。

また、本年度の当初予算において、一般会計におきましては 576 億円が計上されましたが、その内市税は 228 億 4 千万円であり、市税収入ではまかないきれない部分は、地方交付税や補助金及び、市の借金である市債や基金によって構成されています。市税収入は前年度に比べ約 20 億円の減収となり、決算ベースの経常収支比率 97.7%となり、収入の中から自由に使える予算は、全体のわずか 2.3%と、財政状況が一段と硬直化しています。

限られた時間ですので、予算委員会における会派の質疑や要望事項について一部紹介させていただきます。

まず、行財政改革については、人件費の適正化や常態化している外郭団体などへの補助金・負担金が既得権化していないかなどの点検・見直しを指摘しました。

また、無駄をいかに省くかという視点だけでなく、税収をいかに増やすかという視点も重要であり、地域経済の活性化や雇用の拡大を図るためには、産業基盤を創出する新規事業の支援や、中小企業への支援策、貸し渋り対策、そして企業誘致など、早急な対応が求められております。

特にお茶と観光のまち「宇治」という観点から、これまでの世界遺産や豊かな文化財を生かした「守り」の観光から「攻め」の観光へとコマを進める必要があり、「伊勢のまわりゃんせ」を参考にしたりやアニメを取り入れたり、新規予算での観光振興計画に期待しております。

そしてまた、厳しい財政状況の中から、「選択と集中」をテーマに、障害者福祉の分野では、たとえば、重度身体障害者訪問入浴サービスの対象年齢を 10 歳以上から利用できるように拡充したり、障害者介護給付費の新規予算として、重度の視覚障害者（児）の外出支援やグループホーム・ケアホームの家賃一部助成、また身体・知的障害者の相談事業についても予算計上する積極的な姿勢が伺えます。

また、昨年の市内での児童虐待事件を踏まえ、乳児家庭の全戸訪問事業を実施、児童相談所との連携強化についても取り組んでいくとの事です。ただし、我々としては、こうした一連の取り組みの中で、子どものライフステージにあった体系的な取り組みについて、もう少し精査する必要があり、子育て支援の総合的な部署間の連携について要望を行った所です。

また学校関連では、24年度からスタートする、小中一貫教育全面実施への対応、通学路の安全対策、地震や水害などへの学校避難マニュアル、武道必修化に伴い中学校で実施される柔道の安全対策など、市教委にその対応を求めた所であります。

その他、最近のゲリラ豪雨に対して、東宇治地域の山間部から低地に流れる雨水対策や、市内でも目立ちはじめた空き家対策についても早急な対策を要望致しました。

今後も限られた財源をもとに、市民サービスを低下させることなく、より優

先度の高いものについて、重点的な予算配分できますよう努めて参ります。

最後に、本日、ご来場いただきました皆様に、感謝申し上げ、自民党市会議員団からの予算に対する見解と致します。ありがとうございました。

公明党議員団 長野議員

皆さん、こんにちは。

まず最初に、公明党宇治市会議員団の簡単な紹介をさせていただきます。

宇治市議会に初めて公明党の議員が誕生したのは、昭和34年です。大野光春さんという方で当時は無所属からに出馬でした。大野さんは4年後の選挙では「公明政治連盟」という会派名で当選。定数24名中、1708票でトップ当選でした。

「公明党」になったのは昭和42年からで、現在、5名の議席です。

わたしたち公明党の原点は、何といたっても『大衆とともに』であります。この立党の精神のもと、常に庶民の味方、一番困っている人に寄り添い、苦楽を分かち合いながら、「一人の人を大切に」を合言葉に、5人の議員が日夜、市民相談に全力で頑張らせていただいております。

それでは24年度当初予算案についての公明党宇治市会議員団の考えを述べます。

本市の厳しい財政状況については、多くの皆様のご指摘のとおりです。平成22年度決算で市税収入が前年度に比べ約30億円の減収となったほか、扶助費をはじめとする義務的経費などの増加によって経常収支比率が前年度から4.7ポイント増の97.7%となり、大きく悪化しました。それも5年連続の悪化です。

市長の施政方針演説のなかにも、「極めて厳しい財政状況のなか、ますます多様化する行政需要や市民ニーズに対し、『あれもこれも』ではなく、『あれかこれか』を選択しての行政運営の重要性が示されているところです。

私どもが昨年12月に市長に提出した「平成24年度予算編成に関する要望書」は、重点項目60、主要施策151項目の内容ですが、このテーマとさせていただいたのが「さらなる行財政改革を進め、市民の安全・安心を最優先のまちづくり」です。

東日本大震災を経て、我々日本人は、つねに想定外の災害がいつ起こるか分からないといった状況のなかでの暮らしを余儀なくされています。市民の生命を守り、その生活を支えることが最重要であります。なおかつ、未来にはばたく子どもたちから長年全力で社会を支えて下さってきた高齢者までの方々が希望を感じられる予算編成でなくてはならないと考えます。

無駄をなくして最優先すべき課題から逃げない予算案といった観点から当初予算案を検証させていただいてきました。

行革に関しては、徹底した歳出削減の必要性から、職員の総人件費の削減を

強く求めてきました。特殊勤務手当や諸手当について、少し見直しがされたことについては一定評価しますが、これは今後の適正化への期待感をにじませたという点についてであり、厳しい民間の給与の現状を見るにつけ、公務員の厚遇体質は改善されたとは言い難いものがあります。私たちが粘り強く言っているところの労使交渉の全面公開、傍聴を実現し、市民に見える形での透明化が不可欠です。今後強く期待します。

緊急雇用及び経済支援については、将来を見据えた産業振興施策の再構築を図り、産業基盤整備のさらなる充実を訴えています。条件緩和をしたマル宇融資制度の継続は、多くの中小企業の皆さんからも喜ばれる施策であり評価したい。又、財政厳しい中、全国ブランド「宇治茶」を守る茶業振興にはふさわしい支援策がなされたことは喜ばしいことです。

健康づくりと医療については、がん対策や母子保健の充実に本市らしい丁寧さが光るところです。今後は、がん検診に前立腺がんを加えることや、近年急増しているうつ病対策などについても検討を進めるべきと考えます。

安全・安心のまちづくりについて

予算委員会において、災害に強いまちづくりに向けての様々な取り組みや、宇治川治水対策の推進について訴えました。今後も地域コミュニティ活性化条例の制定など、現状の課題に合った施策の実現に向けて力を尽くします。

教育については、市民ニーズの大きな課題について実現を図って参りました。現在7名に拡充された学校図書館専任司書、当初予算の中でモデル校が1校増えた中学校昼食提供事業などは公明党の粘り強い主張で実ったものです。

環境対策の推進についても具体的な取り組みとして実現したのが、ごみの減量化及び適正処理です。天ぷら油、ペットボトルキャップの拠点回収がスタートしました。これは長い間の市民の皆さんとの協力が実を結んで実現した施策です。

子育て支援『チャイルド・ファースト社会の構築』も私たちの大きな課題です。

発達障害児への公的支援、保育所の待機児童対策については少しずつであっても着実に推進できている状況です。悲惨な乳幼児虐待問題に対する対策も重要です。長い間課題であった公立幼稚園の今後のありかたについては、いよいよその具体的な形が示される時期を迎えますので、期待をもって見守りたい。

『ユニバーサル社会の実現』について

なかなか進まない福祉工場の設置実現に向けて取り組んでもらいたいと主張しています。待機者が深刻化している特養や老人保健施設の増床もまだまだ必要です。高齢者虐待も今後の地域のネットワーク再構築のなかで、必ず解決していかなければなりません。

観光都市であるとともに文化芸術先進都市を目指す本市にあって、市民の文化芸術活動を支えていくことは不可欠です。そのためにも宇治市文化芸術振興

条例を制定すべきです。これからも粘り強く尽力して参ります。

24年度予算案について、私たち公明党市会議員団はさまざまな意見を申し上げながら賛成の立場を表明しました。住民サービスの遅滞ない向上を望むからです。限りある財源のなかで、めりはりのある希望の持てる予算案だと判断しました。

東日本大震災以後、国民の政治不信は極限にまで達しつつあります。日本再建をキーワードに、公明党は率先して議員歳費の削減を主張し、国会議員自らが身を切る改革の断行を主導してきました。

地方議員と国会議員が連携を密にしたネットワーク政党としての最大の強みを生かし、これからも庶民の党としての真骨頂をお示ししながら、御期待に応えて参ります。これからもどうぞ宜しくお願いします。

社会議員団 池内議員

みなさん、こんにちは。今日は「市民と議会のつどい」に、お忙しい中、ご参集いただき、ありがとうございます。

宇治市議会社会議員団の幹事の池内光宏です。どうぞ、よろしく願いいたします。

さて、社会議員団は、議員団長の浅見健二議員と木村正孝議員、そして私の3名の議員で構成している会派です。私共は 平和憲法を守り、戦争に絶対反対する。市民の暮らしと環境改善にがんばる。お互いの思想信条を尊重する。議会の自主・自立・公平・平等を大事にする。ことを基本に頑張っております。

とりわけ議会と市理事者は、二元代表制の下、市政運営に対し、お互いに協力しながらも、特に議会は与党とか野党を越えて、当局の施策・事業に対し、厳しくチェックし、正すべきことは正す責任があると思っています。

さて、本日の「つどい」では、この3月予算議会での私共 社会議員団の議会審議を中心にご報告させていただきます。

最初に平成24年度宇治市一般会計予算については賛成、国保会計や介護保険会計、また、水道事業会計に反対したことを、先ず申し上げておきます。

「一般会計予算」については、厳しい財政事情の中、先の予算委員長の説明にもありましたように、それなりに市民生活の向上、地域環境の整備、教育・文化側面で配慮されているとして賛成しましたが、一方では、宇治川太閤堤跡公園整備の総事業費や JR 奈良線複線化に伴う新駅要望の検討、天ヶ瀬ダム再開発に伴う橋梁の架け替えなど、先行き不透明な課題もあり、その上、マスコミでも大きく報道された生活保護申請時の違法な誓約書の提出強要や学校給食の民間委託に伴う再入札、アクトパル宇治のグラウンドゴルフ場の芝枯れ、児童虐待事案に対する不十分な対応など日常の市政運営に、多くの弱点や課題があることを指摘し、また要望も致しました。

次に、市民の厳しい暮らしの中、赤字を見込んで国保料金を引き上げたものの、国保会計が2年連続大幅黒字になった国保会計に対し、反対すると共に、国保料引き下げを議会議案として提案しましたが、否決されました。国保料引き下げの請願には賛成したことも申し添えておきます。

宇治市水道事業会計については、開浄水場の廃止を前提にした予算であることから反対しました。私共、社会議員団は、長年の地域住民の浄水場存続の願いを実現し、かつ防災面からも市内の自己水源は守るべきものと考えております。

最後に、昨年10月後半、宇治市は「宇治市集会所再生プラン」を発表しました。現在、宇治市内にある公の集会所131ヶ所を廃止し、町内会・自治会あるいはNPO法人に委託することと、民間集会所に対する支援を拡充しようとするものです。

私共、社会議員団は「民間集会所に対する支援拡充は、結構なことではあるが、公立集会所については自治会・町内会にも事前相談も説明もないまま、まさに頭から「廃止ありき」で地域説明会をし、宇治市集会所廃止の条例を提案することは、余りに一方的すぎるし拙速な行為である。このままでいくと、集会所が地域に開かれたコミュニティ施設として、安心・安全、公平、健全に維持管理・運営がされるかどうか、大いに懸念と不安を感じる。」として反対しました。残念ながら宇治市集会所廃止の条例は可決されましたが、課題は山積していますので、今後もしっかりと当局に質し、また地域の皆様の声も十分伺ってまいりたいと思っています。

なお、今議会で私共は共産党議員団と共に、「宇治市の地下水を保全する条例」の制定を議会議案として提案しました。宇治市の地下水を市民共有の公の水として、その涵養を進め、汚染のない地下水を適正利用することで安全・安心な飲料水を確保し、子々孫々に亘るまで育み、保全しようとするものです。残念ながら他会派・議員のご理解・ご協力は得られませんでした。今後、ねばり強く取り組んでまいりたいと思っています。

以上で宇治市議会社会議員団の議会報告をいたします。ご静聴ありがとうございました。

無会派 浅井議員

無会派の浅井厚徳でございます。無会派とは聞きなれないと思いますが、既存の政党・会派に属さずに一人で議員活動しております。市民の立場に立って市民の声を市政に反映させていくということで頑張っております。

私も1月に久保田市長に125項目の予算要望書を提出いたしました。「希望の持てる創造的な福祉社会の実現を目指そう」を基本的な理念にいたしまして、7つの基本課題を掲げました。

予算委員会・一般質問で取り上げてきた1つの事に絞ってご報告させていた

だきます。それは、市民の安心・安全、特に防災対策について取り上げたいと思っております。昨年3月11日の東日本大震災は想像を絶するものでありました。この震災をどのように受け止めていくべきなのか。まだまだ議論をしていかなければならないと思っております。いつまでも被災者の気持ちに寄り添うことが大切で、これからも防災対策に特に力を入れて取り組んでいきたいと考えております。

無会派 片岡議員

無会派の片岡英治です。7～8年前の日本経済新聞でございますけれど、小学校入学前のお子さんによく病気をするというので、私は小学校入学前までの子どもさんの医療費の無料化を訴えてまいりましたが、今回、実現しました。市長他関係者の皆さんに深く感謝を申し上げます。

それから、給食です。中学校に広がりました。給食というより給食弁当です。朝、申し込みますとそれから作るので比較的温かい弁当が届けられる。しかもこれは、全くの外部委託ですから、ほとんど経費がかからない。こういった子育て支援 本当にありがたいと思っております。

私が主張しておりますのは、大震災の時でも障害をもった方が混乱もなく受け入れてもらえるように洋式トイレ、ベッド等の確保を要望いたしております。

子育て支援には、年間約7,000万円の費用がかかる。市民税の税収も落ち込んでいる。地方自治体は利益を上げる自治体ではありませんので、どんどん経費が出ていく。こういう中であって私も議員は、きびしい姿勢で行政に求めているかなければなりません。そのためには議員自らが身を切るべきだと思っております。議員報酬一人当たり月額53万5千円 期末手当を入れて約800万円ありますけれども、最大4年間休んでも全く給料が引かれない。せめて職員と同程度にしてスタートすべきだと思っております。以上でございます。

<休憩>

5. 質疑・応答

質問者 税収が20億円落ちた、予算で人件費が歳入の2割を占めている。

これは下がったのか？税収が落ちたのに人件費が下がらなかったらどうなるのか？

答弁/坂下議員 ここ数年団塊世代の職員が退職したので、一時的に下がった。

しかし職員人数は変わっていないので、長期で見れば変わらない。国家公務員給与は国が下げると言っているが、地方自治体への影響はまだわからない。

答弁/片岡議員 団塊の世代の退職が大きい。

質問者 一般企業なら下げる。近く消費税が上がってくる。

答弁 / 松峯議員 議会でも検討している。

質問者 大震災のがれき処理、議会としての取組は。それと水道水、琵琶湖からだがその北側に原発がある。原発の影響を琵琶湖が受ける。具体的な取組は？

答弁 / 浅井議員 安全性が確保できれば積極的に受け入れていくべき。市長は諸条件が整えば取り組むとのこと。それにはやはり安全性が大事。がれき受け入れは1キロあたり100ベクレル以下。焼却は1キロあたり2000ベクレル以下。宇治市は関西広域連合の基準に沿って、安全基準をこしらえて受け入れていく立場になっていくと考えている。城南衛管でも協議がはじまっている。

答弁 / 河上議員 オール日本の立場ではやく回収すべき。安全性の問題を整理したかたちで1日でも早く受け入れをすべき。

答弁 / 山崎議員 がれきについては国と東京電力が処理すべき。広域で受け入れるためには、安全性の点検が大事。国が責任をもって安全だという処理をして、安全の確認できたものを受け入れていくことになる。徹底した安全管理が大前提。琵琶湖は原発地域から30キロしか離れていない。宇治市は防災計画の見直しをしているが、放射能対策、琵琶湖の水の汚染がされたときを想定した対策を求めている。

答弁 / 矢野議員 政権与党として各自治体に協力をお願いしたい。まず安全性をしっかりと確かめてもらいたい。広域でがれき処理をお願いしているのは宮城で約350万トン、岩手で50万トン。これを受け入れてくれる各自治体にどのように運ぶのか、どのように保存し、焼却炉が破損した場合の補償など、国でチェックをしながら、各自治体に要請をしていくなかできめ細かくお願いしていく。原発に対しては、なければよいが現実的に無くすわけにいかない。しっかりと安全確認をし、北部に原発を抱えているのでそのこともチェックしていく。

答弁 / 浅見議員 がれき処理については、国の安全対策が見えない。対策が示されるまでは受け入れるべきでない。放射能の問題がなければ積極的に受け入れていくべき。原発の問題は基本的に反対。水の問題は府・国の指針が出されるまで宇治市は判断できないとのこと。

質問者 琵琶湖の放射能による水汚染問題、原発の再稼働は認めるべきでな

い。各会派はどう考えているのか？原発の安全性に対する考えは？

答弁／山崎議員 再稼働反対。代替エネルギーの開発に力を注ぐべき。

答弁／矢野議員 ないほうがいいが現実問題として再稼働をしなければ電力がもたない。自然エネルギーに移行を考えているがすぐにできる問題ではない。安全確認をし、40年経過した原発は再稼働しない、それ以外は安全確認できしだいできる限り無理せず再稼働を一定認めていかなければいけない。

答弁／坂下議員 ドイツでも原発廃止しているが10年間をかけて行っている。自民党の今日までの責任大きい。人間が始末できない使用済核燃料は問題が大きい。10年、20年かけて将来的には止めるべき。

答弁／河上議員 即時廃止という党の方針は決まっていない。個人的見解だが福島県の惨状で危険に人類は気づいた。できる限り早い時期に止めるべき。ただちに止めると雇用の関係など様々な波及があるので、安全に配慮しながら進めていくべき。

答弁／池内議員 原発は安全であると聞いていた。いかに恐ろしいものか痛感させられた、原発は止めるべき。大飯原発の件も止めるべき。がれきは受け入れできない、放射能の拡散になってしまう。現地でどのように封じるかがまず大切なのではと思っている。

答弁／浅井議員 一度には無理だが無くすべき。国が自然エネルギーを計画的に確保していくことを政策で打ち出し、原子力に頼らないかたちに持っていくべき。

答弁／片岡議員 断固反対。皆で工夫すべき。夏の甲子園大会を秋に、コンビニ、ファーストフード等の時間制、パチンコ店など電力消費を考えるべき。

質問者 堀議長のこのつどいご提案は有意義である。1つ目は、開浄水場の請願書を提出した。議会では賛同が得られない。裁判での取り扱いになった。この問題は地元住民要望である。賛同いただけなかった理由は？賛成しなかった会派は住民に説明を。2つ目、地下水保全条例反対の趣旨は？

答弁／坂下議員 私は東宇治地域に住んでいるから府営水を飲んでいる。開住民が地下水を飲みたいことは理解できるが、厳しい財政状況を考えたとき、是非、契約水量に満たない府営水を飲んでもらいたい。地下水保全条例は開浄水場の裁判後に考えるべき。

答弁 / 矢野議員 水質に問題。原水に問題あり。基準の問題によって決着つかず裁判になった。府営水、井戸水の違いはあるけれど地域の問題は地域で解決を。開浄水場継続には当初から反対である。

答弁 / 石田議員 地下水保全条例では府の管理で十分である。涵養はいずれ考える。地下水保全条例は多くの企業に負担をかける。

答弁 / 長野議員 説明会での食い違い、積み重ねがこのような現状を生んだ。反対している理由は、原水に発がん性物質が含まれている状況では、住民に提供できない。その考えは変わらない。裁判結果を見て考える。地下水保全条例の中にある委員会の立ち上げには予算がかかる。新たに条例制定は厳しい財政状況では慎重にすべき。

質問者 物質が問題であるということだが、ポンプが故障した際に装置を設置。そのことは住民には知らされていない。行政がだましている。住民の意見を聞き、議会でやり直すことが自治では？

司会者 / 松峯議員 質問に切り替えを。

質問者 開問題、議員はどのように考えている？

答弁 / 浅見議員 開浄水場は継続すべき。有機物質があるというなかで、それを誰かが埋めたと認識している。その除去に全力を尽くすべき。簡単に除去できる現状なので、引き続き供給すべき。

質問者 福井大飯の原発再稼働発表をした。風力発電を笠取地区に設置をしてはどうか？

司会者 / 松峯議員 それは意見として頂戴いたします。

質問者 議員は態度を改めてほしい。はずかしい。議会に傍聴に行くが寝ていたりしている。話を聞いているのか？市長もかわいそう。これに答えはもらえない。市を退職した職員。天下りは何名？生活保護制度の見直しとあるが、年金受給者より優雅に暮らしていると聞いている。偽装離婚などの手法により生活保護受給もしていると耳にする。洛タイに載っている記事を見て、そのようなことをした職員の気持ちがわかる。

答弁 / 荻原議員 予算委員会でも人権侵害問題は別として、生活保護不正受給に対し、再三にわたって意見を言ってきた。第三者機関などで生活保護受給の審査をすべきである。現場での対応では限界にきている。国の制度であるから、抜本的な改革が必要である。

答弁 / 坂本議員 生活保護受給理由には高齢者、健康面、年金額減額やいろいろな面がある。市の職員がしっかりと取り組んでいく。生活保護受給者は社会的な原因で受けているので、手をしっかりと差し伸べていく。不正受給の問題はしっかりと正していかなければならない。

答弁 / 浅井議員 天下りですが、国ではいろいろ指摘されてきた。宇治市が？ということだが、これまで国で指摘されてきた「天下り」は、宇治市では行われていない。宇治市以外ではわからないが、退職する職員がどこに行くのかあらかじめ決まっていることはない。以前は指摘があったが、現在ではない。

質問者 私はあると聞いている。

質問者 集会所再生プランについて、説明会ではほとんどの方は反対。市で決まってからの説明会はおかしい。管理者報酬撤廃ではやっていけない。市民の声は反対。説明会、全てで反対の意見が出ていた。賛成はいなかった。理事者は会場の雰囲気をもどのように伝えたのか？説明会参加者の顔はどうだったのか？

答弁 / 田中議員 反対意見も聞いたが賛成意見も聞いた。民間集会所の方は自主努力でやってきた。公立集会所はこれまで優遇されていた。管理費に関しては使い方がいろいろある。税金の一部でやっているものだから公平にやっていかなければならない。それらを踏まえて住民の皆さんで考えてほしい。これからも行政はしっかり説明をしなければならない。

司会者 / 松峯議員 本日の書類、アンケートでご意見を。

6. 各会派・無会派議員総括（各2分）

共産党議員団 坂本議員

集会所問題経費削減が問題。住民自治の拠点であり、宇治市が運営をしなければならない。条例廃止には問題がある。地方自治法違反である。がれき処理でも被災地を応援したい。放射能汚染、宇治の皆さんの安全を考えていく。

民主党議員団 矢野議員

医療や病気の検診予防、虐待対策に取り組む。原発やがれき問題は十分に安全をチェックする。防災問題、孤立死など行政としてどのようにするのか提言していく。防犯体制にも取り組む。文化、お茶の振興にも取り組む。

自民党議員団 坂下議員

今回のつどいが初めてでまだ慣れていないが、宇治市は厳しい財政状況である。新しい財源見つからない。収入未済額、しっかり当局に回収を要請する。皆さんのニーズには財源がいる。自主自立のもと、ご迷惑かけるがよろしくお願ひします。

公明党議員団 河上議員

午前は黄檗学園の開校式に参加してきた。小中一貫校は成功する。優れた施設である。ハード、ソフト面も大事。AET10校入っていただく。小中つなぎの先生10名も配置。宇治市の小中一貫教育しっかりがんばる。

社会議員団 浅見議員

税収不足である。今日まで1社の法人税収に依存してきた。今は欠損である。これが市の財政問題になっている。市長提案はだめなものだめ。医療費無料化もこれまでから提案してきた。しかし市長が提案したら皆が賛成した。集会所問題、皆さんの要望を聞き頑張っていきたい。

無会派 浅井議員

地域では高齢者や障害者の問題などいろいろな課題がある。宇治市で重要なことは市民に対し地域での総合的な支援体制が必要である。議員は市民の声を行政に届けることが、大切な役割だと考えている。魅力ある街づくり目指していく。

無会派 片岡議員

議員はボランティアでよい。選挙をやめて抽選で選ぶ。議会は夜開く。週2回で充分。これで、誰でも仕事を持ったまま議員になれる。年俸800万円にかえて年50万円程度の手当とする。

司会者 / 松峯議員 時間も参りましたのでここで閉会を致します。

7. 閉会挨拶 宮本副議長

どうも皆さんありがとうございました。副議長の宮本でございます。

第1回「市民と議会のつどい」の閉会にあたりまして、一言お礼のご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は、初めての「つどい」でございましたが、8名の方に貴重なご意見をいただきました。時間の関係で十分に皆さんのご意見をお聞きすることが出来なかったことをお詫びいたします。

今、地方自治体というのは皆さんのご意見にもありますが、私たち議員は2

つの仕事が必要であると思っております。それは、市民の皆さんの声をしっかりと受け止めて、それを市政に生かしていく。同時に、執行者である市長が行う市政運営についてしっかりとチェックをしていくことが、議会の大きな仕事であると思っております。そういった立場から昨年、議会基本条例を策定いたしまして、今回、初めて「つどい」を持たせていただきました。今日、出されたご意見を今後、議会活動の中に生かしていきたいと思っております。議会の傍聴に行くと議員の行儀が悪いというきびしいご意見もありましたが、そういうこともしっかりと受け止めて皆さんの負託に応えていく、そういう議会活動を進めていきたいと思っております。

今日は本当にお忙しい中、沢山の皆さんがお越しいただきまして、貴重なご意見をいただきましたことに改めて感謝を申し上げます。本日、言い足りなかった事につきましては、アンケートにお書きいただきまして、出来れば、何らかのかたちで、議会の考え方をお返しいたしたいと思っております。

今日は本当にありがとうございました。

参加者 120 名（アンケート回収数 105 名） 議員 28 名 事務局 9 名